

宿泊観光業界の発展に貢献する全旅連青年部

塚島英太部長に聞く

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会(全旅連) 青年部は12月10日、宮崎市のシーガイアで第27回全国大会を開く。全国の青年部員ら千人規模が参加し、業界のさらなる発展に向けて結束を確認する。第26代青年部長を務め、来期(2025、26年度)の部長にも内定している塚島英太氏(長崎県・ホテル長崎)に塚島体制1期の振り返りと部長再登板への思いを語ってもらった。(聞き手 本社・森田淳)

塚島部長体制の回顧

塚島部長体制の約一年半の回顧を。 「政策実現」「地位向上」など、七つの方針を掲げてこれまで活動を進めた。 活動の一つである陳情について、おたのしい結果を出せたのではないかと自負している。私は全旅連青年部活動が16年目になるが、親会と青年部との距離が今まで以上に近くなっている。陳情活動でもわれわれと親会が一体となってきたことが成果につながっている。 これまで10人、20人、多くても50人で行っていた陳情が、いまや100人を超すことが当たり前になった。国会議員の先生方の事務所からも、議員会館に紙を持っていくだけの団体が多い中で、しっかりとアポを取り、一つ一つをしっかりと説明する全旅連青年部を評価していただいている。それぞれの県の青年部員が、先生方が地元にいる時も陳情をかけたがり、日々綿密に連絡をとっていきなり、裏の陳情を行っていることも功を奏している。

政策実現へ着実に成果 業界の地位向上を常に念頭に

一般の消費者がナビールする「宿フェス」がある。宿フェスは第3回を来年2月に予定。前回の今年2月は3万人を超す参加があった。月ごと、6度と、ほぼ毎週に近い。観光に関わるさまざまな事柄について、相対する立場から、一緒に解決しようという思いで、一緒に。前回の星部長、その前の鈴木部長の時代から取り組む。5年、6年たつて花が開いてきたという感じだ。補助金一つを取っても、以前はこの補助金をどう使うのかという相談をしていたものだが、今は全く逆で、省庁が予算要求をする前に、われわれが困っていることを相談し、解決のためにこのように補助金が必要だと、打ち合わせの段階から参加していただいている。人数もさることながら、あいさつの中で「宿フェスは地域の要です」「地方創生の成否は皆さんにかかっています。頑張ってください。」



旅政連(全国旅館政治連盟)による先生方との懇談会「全国旅館政治連盟の集い」には、100人を超す先生方に来ていただいている。人数もさることながら、あいさつの中で「宿フェスは地域の要です」「地方創生の成否は皆さんにかかっています。頑張ってください。」

今後の事業展開

今期が残り約半年。大きな事業はまだ控えている。12月の全国大会はコロナ明けの一回目となる。全国の皆さんに交流を深めてもらう場をつくらせ、開催地の宮崎のメンバーがかなり頑張っている。1人でも多くの部員、OBの方にお集まりいただき、コロナ後の宿泊観光業界の未来について、語っていただければと思う。 2月の宿フェスは、SDGsをテーマの一つに考えている。われわれは避けて通れない、ほかの産業以上に力を入れていかねばならない。「持続可能」といわれるが、われわれの同業者には、ギネスブックにも載るほどの、1300年も続く旅館がある。どんな地方にも伝統文化がある。

全旅連青年部全国大会特集 3/5面



9月19日に行った臨時総会で塚島部長を次期部長予定者として承認した

宿フェス SDGs テーマに 働く人にフォーカス 旅館甲子園

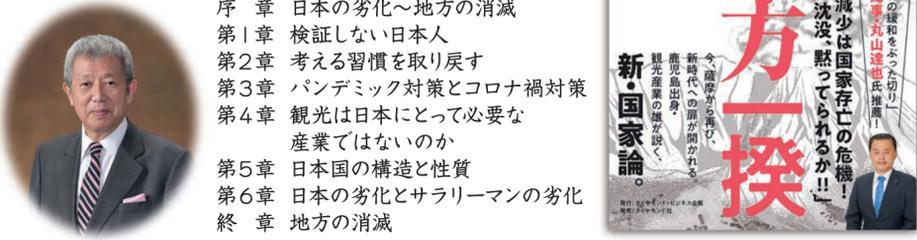
「宿のロワイヤル」を銘打ち、OTAの数を減らす。この時期に泊まるべきさまざまな特典が付いたキャンペーンを行ってきた。かなりの実績があり、来期は親会も共同で、さらに拡大して行いたいと思っています。 「青年部とリーダー」という事業を期から始めた。青年部は月に一度は必ず常任理事会を開催する(必ずしも開催するのだが、大きな議題がない時は何かやむを得ない理由で休む)という仕組みを構築している。 何よりも目指しているのは、われわれ宿泊観光業界の地位向上。決して卑下するわけではないが、われわれ業界の地位は決して高くない。それを上げていくのがわれわれの「1日一善行」だ。この活動をするにしても、それを常に念頭に置いている。 「IMPACT BLEND」 IS NOTHING(不可能なものはない)を1期2年のスローガンに掲げた。事はきまると言い続けて、初めは500人の部員がいても、今は同じような思いを持っていただいているのではないかと。 宿いそは華やかなハードやおいしい食事、温泉、ということに目が行きがちだが、この旅館甲子園は宿で働く人々にフォーカスする事業。自分の仕事がいかに誇りを持てるものなのかをスタッフ自らにアピールしてもらう。「輝く人、輝く宿が日本を元気にする」というコンセプトだ。今回が第7回、私も1回目から関わっているが、基本は変わらない。 日本中、さらには世界中が人手不足といわれるが、働いている人たちが光輝いている姿を発信する。このことが問題解決の一助となるのではないかと。 4面に続く

地方観光の実践者からの日本を守るための激書!

地方一揆

沈黙は愚かである。今、薩摩の地から反旗を翻す。

「このまま黙ってられるか!」 地方経営者の怒りを著者が代弁。尾身茂氏、中川俊男氏、小池百合子氏を敢然と告訴した男、岩崎芳太郎。待望の新刊!



岩崎産業株式会社 代表取締役社長 岩崎芳太郎著 ◆1,600円(税別) ◆発売:ダイヤモンド社 求めは全国書店で。

インバウンドの受入対策に! 宿泊施設向け PRIME CONCIERGE

多言語コミュニケーションツール 「プライムコンシェルジュ」

- 館内情報を全て多言語にすることでインバウンド対策に!
- 館内情報をデジタル化することで人手不足解消&コスト削減!
- クイックオーダーでルームサービスやレストランの館内売上UP!

導入施設数 **No.1**※ 導入累計実績 **800**施設以上!!

※ 2023年5月、自社調べ。宿泊施設向けWEBブラウザを主とする館内多言語コミュニケーションツール(無料・有料含む)導入施設数No.1

詳しくはホームページ専用サイトへ! 申し込みはこちら! <https://prime-con.jp>

下記連絡先までお気軽にお問い合わせください pricon@ab-net.co.jp 052-262-8041 (名古屋本社) cbilive